

2023年度 事業報告書

自 2023年 4月 1日

至 2024年 3月31日

一般財団法人関西観光本部

目次

1. はじめに	3
2. 日本屈指の広域観光圏 “KANSAI”を世界に発信	4
2.1 関西観光情報発信サイト“The KANSAI Guide”を通じた発信強化	4
2.2 SNS による関西各地域の魅力発信	4
2.3 国内の大規模イベントへの出展	5
2.4 台湾大商談会を開催	6
2.5 台湾向けの関空旅行商談会を関西エアポート社と共同で開催	6
2.6 台湾新光三越における関西プロモーション	7
2.7 ドイツ人ブロガーを京都府・三重県・大阪府に招請	7
2.8 イタリアの家族をターゲットにした旅番組「MammAvventura」の撮影に協力	7
2.9 JNTO マドリッド事務所からの依頼によるスペインの旅番組「Valencians al Món」の撮影に協力	8
2.10 エバー航空ウィーン事務所主催の GREEN TRAVEL FEST by EVA AIR Vienna に協力	8
2.11 イタリア旅番組「Donnavventura」を和歌山県・大阪市に招請	9
2.12 外国人留学生による「KANSAI ファン・モニターツアー」を伊勢志摩・淡路島で実施	9
2.13 関西広域連合主催のトッププロモーションへの協力（タイ、韓国）	10
3. 地域を磨く・つなぐ	12
3.1 広域観光「ルート」づくり“THE EXCITING KANSAI”の推進	12
3.2 新たに「広域観光ルート旅行商品」を造成し販売開始	14
3.3 西日本の広域連携 DMO 間のマルチの連携事業の実施	14
4. 新たな魅力を創る	15
4.1 サステナブル・ツーリズム事業	15
4.2 御食国事業	15
4.3 酒蔵ツーリズム事業	17
4.4 淀川における舟運を活用した事業への協力（近畿運輸局との連携）	18
5. 観光のパラダイムシフトへの対応と観光インフラの強化	19
5.1 デジタル基盤の強化	19
5.2 訪関西意向率調査の継続実施	19
5.3 観光人材の強化	20
5.4 ジオパークを巡る周遊観光促進事業（関西広域連合連携）	21
5.5 文化観光促進のための基盤づくり（関西広域連合との連携事業）	22
6. 事業推進のための基盤整備	23
6.1 「関西ツーリズムグランドデザイン 2025」の推進	23
6.2 大阪・関西万博に向けた関西アクションプラン（近畿運輸局、近畿地方整備局との連携）	23
6.3 「KANSAI ONE PASS」の運営	23
6.4 Airbnb Japan との包括連携協定締結	24
6.5 インバウンド情報誌「KANSAI OFFICIAL TOURIST GUIDE」及び関西広域マップの発行	24
6.6 会員への情報発信	24
6.7 関西インバウンド交流会	25
7. 各種事業	26
7.1 伝統文化親子教室事業（地域展開型）「関西キッズ伝統文化プログラム」（文化庁連携）	26
7.2 関西文化の日（関西広域連合・関西元気文化圏推進協議会との共催）	26
7.3 関西元気文化圏賞	27
7.4 兵庫県立芸術文化観光専門職大学の実習生の受け入れ	27

8. EXPO2025 関西観光推進協議会	28
9. 管理運営活動（理事会・評議員会・運営会議）	29
9.1 理事会.....	29
9.2 評議員会.....	29
9.3 運営会議.....	29
10. 会員・構成団体・オブザーバー関係（2024年3月31日現在）	30
10.1 会員.....	30
10.2 構成団体	30
10.3 オブザーバー	30

1.はじめに

2023 年 4 月からの新型コロナの水際措置撤廃以降、インバウンドは急回復を遂げ、単月では 10 月に初めてコロナ禍前の 2019 年同月比 100%を超えた。日本政府観光局（JNTO）が発表した 2023 年の訪日外国人旅行者数は 2,506 万 6,100 人と前年の 383 万 2,100 から大幅に増加し、2019 年比では 8 割程度まで回復した。2024 年に入り、3 月には単月として過去最高の 308 万人を記録した。国連世界観光機関（UN Tourism）によると、2023 年の国際観光客到着数はパンデミック前の水準の 88%に達し、13 億人と推定されており、残る繰越需要の喚起、空港路線の拡大、アジアのソースマーケット（送客市場）やデスティネーションの回復が、2024 年末までの完全回復を下支えすると見込まれている。

2023 年 3 月に策定された観光庁の「第 4 次観光立国推進基本計画」（対象年度 2023～25 年度）では、観光立国の持続可能な形での復活に向け、観光の質的向上を象徴する「持続可能な観光」、「消費額拡大」、「地方誘客促進」の 3 つをキーワードに、持続可能な観光地域づくり、インバウンド回復、国内交流拡大の 3 つの戦略に取り組むこととされている。関西観光本部（以下「当本部」という。）は、2022 年 3 月に策定した「関西ツーリズムグランドデザイン 2025」（以下「グランドデザイン」という。）に基づき、次のような柱の下、各種事業に取り組んでいる。

「広域観光圏“KANSAI”を世界に発信」する取り組みでは、2025 年大阪・関西万博に向けて、当本部のインバウンド向け関西観光情報発信サイトである“The KANSAI Guide”の内容・機能を強化するとともに、SEO 対策や SNS の活用によるデジタルでの情報発信力を強化した。また、好評をいただいている台湾大商談会を 2 月に台北・台中で開催したほか、欧米豪を中心に海外メディアやエージェント等の要請に基づくファムトリップの推進、関西広域連合トッププロモーション（タイ・韓国）への協力など、リアルでのプロモーションに取り組んだ。

「地域を磨く・つなぐ」取り組みでは、和歌山県南部から三重県南部への紀伊半島・熊野古道ルートの旅行商品造成により関西広域観光 8 ルートづくりは概成した。また、5 月には当本部・山陰・せとうち・四国の 4 広域連携 DMO のマルチの連携協定を締結し、共通ウェブサイトの新規オープンにより 17 府県に及ぶ西日本広域周遊モデルルート等の情報発信を行った。

「新たな魅力を創る」取り組みでは、世界的なトレンドであるサステナブル・ツーリズム事業とともに、ガストロノミーツーリズム事業として、酒蔵ツーリズム事業のほか、関係府県とともに御食国事業などを推進した。

「観光のパラダイムシフトへの対応と観光インフラの強化」では、新たに開発・実装した「マーケティングダッシュボード」を活用して旅行意向分析やプロモーション効果の可視化を推進した。また、関西の主要な博物館や美術館を巡れるデジタルパスポート発行に向けた準備や“The KANSAI Guide”に統合した関西の文化関連情報サイトの拡充などに取り組んだ。観光人材については、通訳案内士を対象としたセミナーや実地研修、ファムトリップなどを実施した。

この他、組織基盤・ネットワーク強化に向け、海外情報、活動報告、各種データ等を構成団体・会員に積極的に配信するとともに、インバウンド向けのガイドブック等を発刊し、JNTO 海外事務所を含め各観光案内所等を通じて配布した。また、継続事業として、関西文化の日や関西元気文化圏賞贈呈式等のイベントも実施した。

2025 大阪・関西万博については、万博来場者を関西一円に誘うべく、2023 年 3 月に関西 14 府県市及び交通・観光関係企業により設立された「EXPO2025 関西観光推進協議会」の事務局として、「万博プラス関西観光推進事業」に取り組んでおり、「EXPO 関西商品造成」、「リアルプロモーション」、「デジタルプロモーション」、「旅ナカ・安心サポート」及び「関西広域観光推進ゲートウェイ」の事業を推進し、ONE 関西の体制のもと、総合的かつ強力な事業展開を行った。

本事業報告書は、2023 年度に当本部が行ったこれらの取り組みについて報告するものである。

2. 日本屈指の広域観光圏 “KANSAI”を世界に発信

2.1 関西観光情報発信サイト“The KANSAI Guide”を通じた発信強化

今日、旅行の様々なシーンでデジタル情報を提供することが極めて重要となっており、その内容や質が旅行動機の醸成にも大きな影響を与えている。そのような中、“The KANSAI Guide”は、関西の広域観光情報を海外に発信する web サイトとして成長してきており、基本情報から各地域の魅力発信など、年々コンテンツを充実強化してきている。2023 年度においては、各地域に根付いた様々な体験コンテンツ情報や旅行トレンドを踏まえたテーマツーリズム特集を制作・掲載した。

また、サイト訪問者数およびページ閲覧数を増やすべく、SEO 対策※の強化や JNTO による広域連携 DMO 支援事業を活用した結果、その効果が顕著に表れている。

※ Search Engine Optimization 対策 : Google 等の検索エンジンの検索上位にサイトが表示されるようサイト内容を最適化すること

【サイトコンテンツ拡充】

- ・万博プラス関西観光関連コンテンツ拡充：240 ページ以上
- ・文化コンテンツ／日本酒酒蔵紹介など：700 ページ以上
- ・サステナブル・ツーリズム／サステナブルトリップルート記事：3 ページ
- ・JNTO 支援事業によるワンダーア라운드関西／記事追加：4 ページ

【2023 年度実績】

- ・サイト訪問者数（UU 数）1,327,412（前年 817,544、+62.4%）
- ・内オーガニック検索流入数 587,150（前年 324,003、+81.2%）
- ・ページ閲覧数（PV 数）3,145,156（前年 1,663,129、+89.1%）



関西観光情報発信サイト「The KANSAI Guide」トップページ

2.2 SNS による関西各地域の魅力発信

当本部が運営する SNS メディアに関しては、2023 年 8 月より関西エアポート社とインスタグラムアカウントの共同運営体制を構築し、関西国際空港を起点とした訪関西を促進すべく各地域の魅力あるシーンをインスタグラム中心に記事投稿を行うなど、新しい連携を通じた情報発信を行った。また、JNTO が実施した全国の地域スポットの魅力を SNS ショート動画で発信する支援事業にも参加し、関西の魅力に対する共感獲得に努めた。

これらにより、SNS のフォロワー数も順調に増加している（Facebook 20,278 人、Instagram 2,873 人）。



Facebook <https://www.facebook.com/truckansai>



Instagram <https://www.instagram.com/realjapankansai/>

2.3 国内の大規模イベントへの出展

2023年10月26日～29日の4日間、インテックス大阪で開催された「ツーリズム EXPO ジャパン 2023 大阪・関西」において、関西ブロック広域観光振興事業推進協議会と共同で「EXPO2025 関西観光推進協議会」ブースを出展し、関西の多彩で豊富な観光情報を紹介した。また、10月27日に開催された「万博×観光シンポジウム」では、当本部として「スプリングボードとしての大阪・関西万博」をテーマに基調講演を行った。

ブースでは、当本部の構成団体である関西10府県が一つになって、関西の魅力と2025年大阪・関西万博についてPRを行った。特に、情報発信については、大型モニターによる動画放映など、デジタル化を前面に打ち出す工夫をした。また、10月28・29日の一般日には、観光における持続可能な取組を行っている団体として「観光SDGs デジタルスタンプラリー」にも参画した。

開催期間中、ブースには、国内外の観光関係者、メディア、国・地方自治体の関係者などに幅広くお立ち寄りいただき、大阪・関西万博に向けての取組を紹介できた。4日間を通じ、国内・海外問わず、2025年大阪・関西万博や関西観光の魅力を発信し、デスティネーションとして関西が選ばれるよう、積極的なPRを行った。

▼ツーリズム EXPO ジャパン公式 YouTube「万博×観光シンポジウム」アーカイブ映像

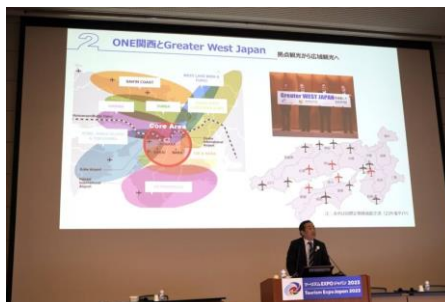
<https://www.youtube.com/watch?v=5L5kIZOMA6w&list=PLZgxRot3Xh9hUZqOqqFlm-oN4418JO3fS&index=5>

<ツーリズム EXPO ジャパン 2023 大阪・関西>

- 期間：2023年10月26日（木）～29日（日）4日間
- 会場：インテックス大阪
- 総来場者数：148,062人
- 出展数：世界70カ国の国と地域、1,275の企業・団体



「EXPO2025 関西観光推進協議会」ブース



「万博×観光シンポジウム」

2.4 台湾大商談会を開催

2024 年 2 月 21・22 日、第 10 回となる台湾大商談会を台中市と台北市の 2 都市で開催した。今回は、セラーとして、関西 10 府県 4 政令市等の自治体や DMO、また域内の観光・宿泊事業者等 65 団体 108 名が参加し、バイヤーである台湾からは、現地の旅行会社等、台中では 58 社（98 名）、台北では 113 社（175 名）、2 都市合計で 171 社（273 名）の参加を得た。

アンケート結果によると、台湾側の参加者の 2025 年の大阪・関西万博についての関心度は 79.2%と高い水準であり、万博を契機とした関西エリアへの誘客に向けて継続して情報発信を行っていく。



台中市での商談会の様子



台北市での商談会の様子

2.5 台湾向けの関空旅行商談会を関西エアポート社と共同で開催

2023 年 8 月 24 日、関西国際空港全体構想促進協議会の協力のもと、関西エアポートと共同で台湾市場からの訪関西旅行の促進を目的とした関空旅行商談会を開催した。

当日は、バイヤーとして、台湾からの訪日客を受け入れしている旅行会社の日本旅行、阪急交通社、アヤベックス等 9 社、セラーとして、KIX 泉州ツーリズムビューロー等関西空港周辺地域の DMO や交通・観光事業者の南海電気鉄道、淡路島観光協会、パソナグループ等の 9 社・団体が参加した。バイヤー側からは、コロナ後の訪日客のトレンドの変化について情報提供をいただくなど、活発な商談会となった。

関西国際空港は 1994 年の開港以来初となる大規模リノベーション工事を実施しており、2023 年 12 月に関西国際空港第 1 ターミナルの国際線出発エリアがリニューアルオープンした。それにより、国際線旅客の受入人数が現在より大幅に引き上げられるとともに、国際線の出発エリアの面積は従来の 6 割増となるほか、免税店の更なる充実を図られた。商談会では、このような関西のゲートウェイの機能強化について、プロモーションする機会ともなった。



観光情報 PR の様子



商談会の様子

2.6 台湾新光三越における関西プロモーション

台湾新光三越百貨店が主催する「日本商品展」は、例年、多くの来場者があるイベントである。本年は10月21日・22日の2日間、アジアで最も商業施設が集中していると言われている信義エリアにある新光三越の店舗である台北信義新天地において開催された。当本部は、関西国際空港全体構想促進協議会との連携の下、関西観光特展ブースを出展し、現地スタッフによる観光PRに加えパンフレットの配架やポスター展示を行い、関西各地の魅力を紹介した。また、10月23日には台湾市内の旅行会社5社へのセールスコールを行った。

2.7 ドイツ人ブロガーを京都府・三重県・大阪府に招請

2023年7月5日～11日の日程で、京阪ホールディングス株式会社、八幡市観光協会、三重県観光部、近畿日本鉄道株式会社、株式会社近鉄・都ホテルズ、大阪観光局の協力のもと、ドイツ人ブロガーであるJASMIN FATCHILD氏の取材ファムを実施した。

日程の前半は京阪グループのGOOD NATURE HOTEL KYOTO・京都センチュリーホテルに宿泊し、京阪電車沿線にある伏見稲荷大社と八幡市、叡山電鉄で貴船を訪問するとともに、スカイホップバス京都で京都市内を視察した。その後、近鉄特急しまかぜに乗りし、三重県観光部の協力で伊勢・志摩・桑名を訪問した。後半はシェラトン都ホテル大阪に宿泊し、大阪観光局の協力でヴィーガンレストラン、大阪木津卸売市場及びSDGsの観点から柏原市のワイナリーを訪問した。

この取材ファムにより、JASMIN氏にはドイツ向けにブログとショートムービーで訪問先を紹介していただき、ヴィーガンの観点から人気の高い関西の食について発信していただいた。

▼webメディア「my berlin fashion」記事ページ <http://www.my-berlin-fashion.com/2023/08/>



あべのハルカス



石清水八幡宮



安乗崎

2.8 イタリアの家族をターゲットにした旅番組「MammAvventura」の撮影に協力

イタリアで30年以上続く旅番組「Donnavventura」からの依頼で、京都府・奈良県・近畿日本鉄道株式会社の協力のもと、家族をテーマにした「MammAvventura」の撮影を2023年4月11日～15日の日程で行った。

親子3世代が京都・奈良を旅するこの番組は、家族向けの関西旅行を意識し、着物・サムライ・忍者・茶道・生花・舞妓体験を中心に撮影が行われた。京都府宇治市では、抹茶を使った料理、衣装に着替えての茶摘みや玉露淹れ方体験を行い、奈良観光では、東大寺と奈良公園でのピクニックランチなど、地域の特性を活かした家族向けプログラムを紹介した。



茶づな



伊賀流忍者道場



奈良公園

2.9 JNTO マドリード事務所からの依頼によるスペインの旅番組「Valencians al Món」の撮影に協力

2023年5月13日に JNTO マドリード事務所からの依頼で、スペインテレビ番組「Valencians al Món」（バレンシアン・アル・モン）の撮影に協力した。

この番組は、Comunidad Valenciana（スペイン東部に位置する地域）出身者が暮らす世界中の国々をレポーターが旅をしながら紹介する企画で、年間100本以上の番組が制作される高視聴率の番組である。

今回は、撮影先として京都と奈良が選ばれ、京都市内の古民家ではレポーターが舞妓に変身して撮影したほか、伏見稲荷大社及び東大寺では、レポーターが日本に住むバレンシア出身のスペイン人にインタビューするシーンや施設紹介等の撮影が行われた。



京都・伏見稲荷大社



奈良・東大寺

2.10 エバー航空ウィーン事務所主催の GREEN TRAVEL FEST by EVA AIR Vienna に協力

GREEN TRAVEL FEST は、エバー航空が主催し、アジア就航都市の伝統文化・食文化の魅力を発信し、オーストリア人の海外旅行を促進することを目的としたイベントであり、2023年10月2日～5日にオーストリア・ウィーンで開催された。当本部は、関西の地図・PR動画・パンフレットやスタッフの法被等を提供するなど、関西のPRのための協力を行った。



2.1 1 イタリア旅番組「Donnavventura」を和歌山県・大阪市に招請

「Donnavventura」（ドナベントゥーラ）はイタリアで 30 年続く旅番組であり、2018 年に京都府・奈良県を中心に番組の取材協力を行ったが、今般、新たに番組制作協力依頼があり、2023 年 10 月 8 日～15 日の日程で和歌山県・大阪市での撮影強力を行った。

今回は、和歌山県、南海電気鉄道、大阪観光局並びに日本国際博覧会協会の協力を得て、熊野古道、高野山、道頓堀、梅田スカイビル・空中庭園展望台など関西の魅力を撮影いただいた。また、大阪・関西万博公式キャラクター「ミャクミャク」との撮影も実施し、2025 年大阪・関西万博の機運醸成に貢献した。

▼番組公式 Facebook <https://www.facebook.com/donnavventura>



万博公式キャラクターミャクミャク



大阪・梅田スカイビル空中庭園展望台



和歌山・熊野古道

2.1 2 外国人留学生による「KANSAI ファン・モニターツアー」を伊勢志摩・淡路島で実施

2023 年 9 月 13・14 日、関西国際大学国際コミュニケーション学部観光学科で観光を学ぶ留学生によるモニターツアーを伊勢志摩及び淡路島で実施し、作成した動画を中国・ベトナム・韓国等の若い世代に向けて YouTube 等で情報発信した。

今回は、コースの立案から当日のアテンドに至るまで、伊勢志摩観光コンベンション機構及び淡路島観光協会の協力のもと、観光コンテンツのみならず動画の構想やストーリーを組み立てた上でファムトリップに臨んだ。伊勢志摩コースでは、観光特急しまかぜの乗車体験に始まり、志摩スペイン村や鳥羽水族館、はちまなかまど海女小屋体験、伊勢神宮・内宮等を巡り、淡路島コースでは、イングランドの丘、うずしおクルーズ、五斗長垣内遺跡やアクアイグニス淡路島等をそれぞれ 1 泊 2 日で巡った。



伊勢志摩・志摩スペイン村



アクアイグニス淡路島



淡路島ハイウェイオアシス

2.1 3 関西広域連合主催のトッププロモーションへの協力（タイ、韓国）

2-1 3-1 タイ・トッププロモーション

2023 年 11 月 22 日・23 日、関西広域連合の西脇副広域連合長（広域観光・文化・スポーツ振興担当）を団長としたトッププロモーションがタイ・バンコクにおいて実施され、当本部も参画した。

このプロモーションでは、関西の官民が一体となって現地の政府機関や主要な関係団体を訪問し、2025 年大阪・関西万博への来場や関西広域への観光誘客を呼び掛けた。また、関西観光セミナー・交流会においては、参加者から関西各府県市の魅力や 2025 年大阪・関西万博の概要、関西国際空港のリニューアルについて説明が行われ、現地の旅行事業者や宿泊事業者など約 50 名が熱心に聴講した。会場では大阪・関西万博ブースを設置し、万博の機運醸成や関西への誘客のためのプロモーションを実施した。

<参加団体>

関西広域連合、滋賀県、京都府、和歌山県、徳島県、京都市、公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会、関西エアポート株式会社、一般社団法人日本旅行業協会関西支部、一般財団法人関西観光本部

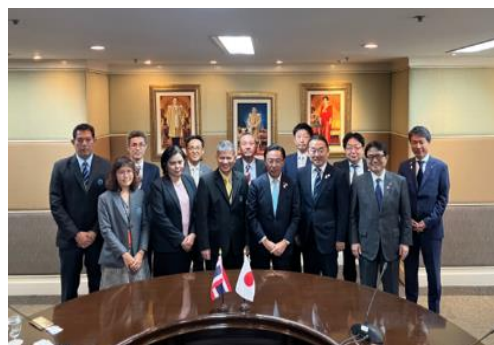
<訪問先等>

11/22（水）バンコク日本人商工会議所、JETORO バンコク、タイ旅行代理店協会、関西観光セミナー・交流会

11/23（木）タイ商務省、タイ政府観光庁、在タイ日本大使公邸



タイ 商務省 表敬訪問



タイ 国政府観光庁 表敬訪問



関西観光セミナー & 交流会



関西観光セミナー & 交流会

2-1 3-2 韓国・トッププロモーション

2024 年 1 月 29 日・30 日、関西広域連合の三日月広域連合長を団長に、徳島県の後藤田知事ほかが参加するトッププロモーションが韓国・ソウルで実施され、当本部も参画した。

各訪問先では、2025 年大阪・関西万博への来場と関西各地域への周遊をアピールし、万博開催に絡めた企業のインセンティブ旅行や視察旅行、教育旅行の実施を促した。韓国政府やソウル特別市・議会では関西広域連合の役割や機能を紹介し、万博を契機とした日韓のさらなる往来の増加や日韓国交正常化 60 周年に向けた取り組みについて意見が交わされた。関西観光セミナー・交流会では、関西の魅力 PR や構成団体のプレゼンテーション、関西国際空港や米子空港についての説明等が行われ、現地の行政・関係機関、航空会社、旅行会社、マスコミなど約 70 名が熱心に聴講した。

<参加団体>

関西広域連合、滋賀県、京都府、奈良県、鳥取県、徳島県、近畿運輸局、公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会、関西エアポート株式会社、一般社団法人日本旅行業協会関西支部、一般財団法人関西観光本部
<訪問先等>

2024 年 1 月 29 日（月）

韓国中央政府、ソウル特別市、ソウル特別市 議会、JNTO ソウル事務所、ソウルジャパンプラブ、JETRO ソウル面談、韓国観光公社、関西観光セミナー・交流会

2024 年 1 月 30 日（火） 韓国旅行業協会、関西広域連合主催 昼食会（来賓：在韓国日本国大使）



ソウル特別市 表敬訪問



韓国旅行業協会 表敬訪問



関西観光セミナー&交流会



関西観光セミナー&交流会

3.地域を磨く・つなぐ

3.1 広域観光「ルート」づくり“THE EXCITING KANSAI”の推進

広域観光ルートは広域観光の基盤であることから、当本部は、京都市、大阪市、神戸市、奈良市、堺市を拠点（コアエリア）とする関西の広域観光ルートを“THE EXCITING KANSAI”として形成するため、地域との連携のもと、取り組みを進めている。

具体的には、共通のテーマやストーリーでつなぐ8つのルートの構築を進めており、自治体、地域・地域連携 DMO や地域の企業などと連携して地域の価値やコンテンツを洗い出し、これらを巡る旅行商品の造成を行っている。また、このルートに各地での体験型商品を集約して、旅行者の興味や関心を惹きつける動画を制作し、Web サイト等を通じて情報発信を行っている。



【8つの広域観光ルートの概要】

i) 紀伊半島エリア

和歌山県・奈良県・三重県…「心の原点への巡礼の旅」のエリア
巡礼の道、熊野古道は千年以上の時を経て日本の精神の原点を現代に残す。自分に向き合い高めるスピリチュアルな道。

【主要観光素材】熊野三山、高野山、熊野古道、伊勢神宮、吉野、
十津川



ii) 播磨エリア

兵庫県…「名城と侍文化、海の道」のエリア

都と西国を結ぶ要衝にあって、世界遺産 姫路城を中心に今でも残る戦国・侍文化。現代に至るまで多様な文化を受け入れながら発展している。

【主要観光素材】姫路城及び播磨エリアの城郭、圓教寺、赤穂、
有馬温泉、神戸灘の酒蔵



iii) 琵琶湖西岸～北陸エリア

滋賀県・福井県…「水がはぐくむ文化と信仰」のエリア

日本最大の湖・琵琶湖。後背地の山々の豊かな雪解け水は田畑を潤し、水郷を形成しながら暮らしや信仰に息づいている。

【主要観光素材】琵琶湖、比叡山延暦寺、永平寺

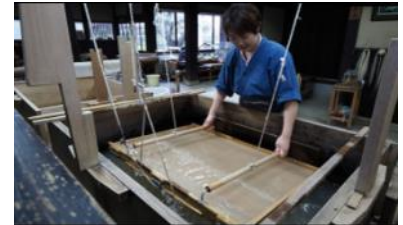


iv) 福井～琵琶湖東岸エリア

滋賀県・福井県・三重県…「戦国文化とクラフト」のエリア

多くの武士が往来し武家文化・忍者文化が栄えたこのエリアは、千年以上続く伝統工芸から現代的なものまで「クラフト」のエリアでもあり、多くの匠を育ててきた。

【主要観光素材】越前漆器、越前打刀物、信楽焼、彦根城



v) 神戸～淡路島～徳島エリア

兵庫県・徳島県・和歌山県…「パノラミックな国生みの海」のエリア

内海ゆえの島影や渦巻く潮流など穏やかで広大で変化に富んだ海。ゆっくり滞在すると海に日が昇り、沈み、そこに生まれた国生みの神話や生活者の文化も見えてくる。

【主要観光素材】明石海峡大橋、鳴門の渦潮、人形浄瑠璃、藍染め



vi) 山陰海岸エリア

京都府・兵庫県・鳥取県…「海岸美と恵み」のエリア

奇岩や断崖の岬と漁村が交互に続く独特の地形は、息をのむ景色と豊かな漁場、穏やかな人々の営みを形成している。

【主要観光素材】天橋立、伊根の舟屋、城崎温泉、浦富海岸、鳥取砂丘



vii) 奈良～伊勢エリア

奈良県・三重県…「神話から古代へ、日本の原点」のエリア

神話時代までさかのぼる日本の原点。政治・文化のオリジンはここにあり、いくつもの時代の足跡が多重に折り重なる。

【主要観光素材】伊勢神宮、海女文化、斑鳩、飛鳥、吉野



viii) 丹波エリア

京都府・兵庫県…「実りの里山」のエリア

京都と兵庫にまたがる「丹波国」は独自の作物が実る、豊穡の里山。そこに街道の要衝となる城下町や、都の食材を支えた町など個性が光る暮らしがある。

【主要観光素材】丹波篠山の城下町、丹波焼、美山、丹波の食材



3.2 新たに「広域観光ルート旅行商品」を造成し販売開始

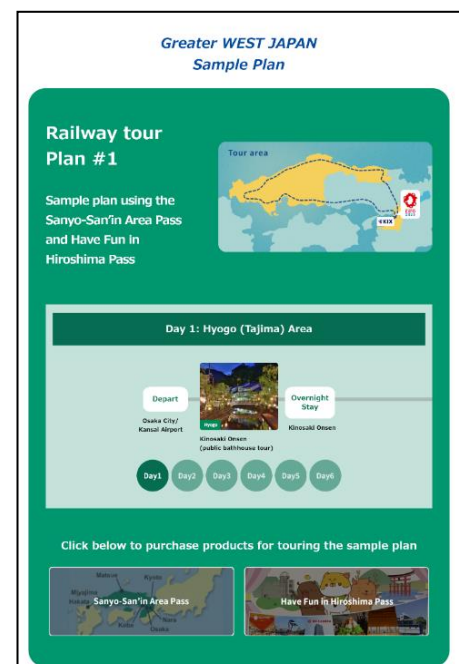
広域観光ルート“THE EXCITING KANSAI”については、これまで8つのルートそれぞれを象徴する旅行商品を順次造成している。2023年度は、未着手であった紀伊半島エリアでの商品造成に着手し、南海国際旅行の協力のもと、三重県(伊勢路)～和歌山県(大辺路)を巡るコンセプト商品の造成が完了した。これにより関西一円での広域観光ルートが概成し、今後、ルートの深化とともに、テーマツーリズムとの連動を進めていく。

■伊勢～熊野ルート：5泊6日 <https://nanka-e-tabi.com/iseandkumano/>

3.3 西日本の広域連携 DMO 間のマルチの連携事業の実施

2023年5月9日、一般財団法人関西観光本部、一般社団法人山陰インバウンド機構、一般社団法人四国ツーリズム創造機構及び一般社団法人せとうち観光推進機構の4つの広域連携DMOは、日本で初めてマルチの連携協定を締結した。

その連携協定に基づく取組みとして、2024年3月27日、4広域連携DMO共通のウェブサイト（英語版）をオープンした。これにより、海外に向けて、各エリアの魅力ある観光資源や観光情報、エリアを巡るモデルルートの発信を始めており、大阪・関西万博を見据えて、世界にデスティネーションとしての西日本「Greater WEST JAPAN」をアピールしていく。



4.新たな魅力を創る

4.1 サステナブル・ツーリズム事業

昨今、トレンドとなっているサステナブル・ツーリズムについては、2022 年度、調査戦略策定事業において関西一円のコンテンツ 20 件を選定した。2023 年度は、これらの選定したコンテンツと JNTO サステナブルコンテンツ 12 件や周辺エリアの観光資源と組み合わせたモデルコースを 3 コース造成した。

また、”The KANSAI Guide”において、関西一円のサステナブルコンテンツ 20 件及びモデルコースを紹介している。

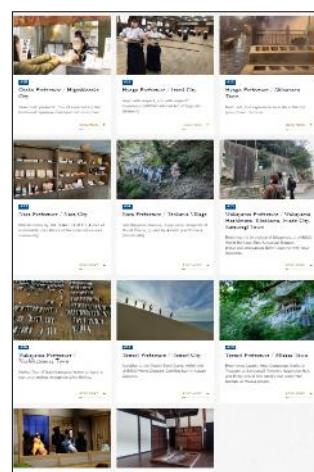
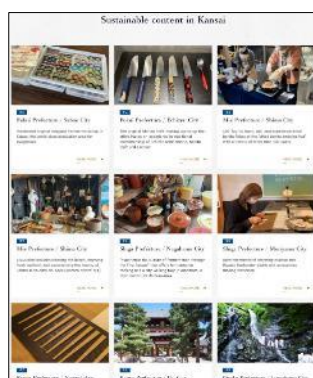
【事業内容】

①関西のサステナブル・ツーリズムモデルコース：

1. 京都～福井～滋賀（職人・進化し続ける伝統工芸）
2. 大阪～奈良～三重（地域の食を味わう・御食国など海女文化）
3. 兵庫～鳥取（日本ならではの温泉・地域の暮らしや人と触れ合う）

②関西のサステナブル・ツーリズム WEB ページ構築（The KANSAI Guide）

③サステナブル・ツーリズムをインバウンド OTA（Viator 等）で販売



▼KANSAI サステナブル・ツーリズム <https://www.the-kansai-guide.com/en/sustainable-tourism-kansai/>

4.2 御食国事業

御食国（みけつくに）は、日本古代から平安時代まで、皇室・朝廷に海水産物を中心とした御食料（穀類以外の副食物）を貢いだと推定される国を指す。この御食国の歴史的・文化的価値を活かして、京都府・兵庫県・福井県・三重県が連携事業としてキャンペーン活動等が行われてきたが、これを継承・発展させるため、2022 年度から当本部が事務局として参画し、テーマツーリズム化を推進している。2023 年度においては、御食国ストーリー・ブランドを構築するため、キャッチコピーの設定、飲食店と連携した 3 コースの旅行商品を造成するなどの事業に取り組んだ。

【事業内容】

①御食国ストーリー・ブランドの強化

ブランドコンセプト及びキャッチコピー作成、御食国推奨店の選定

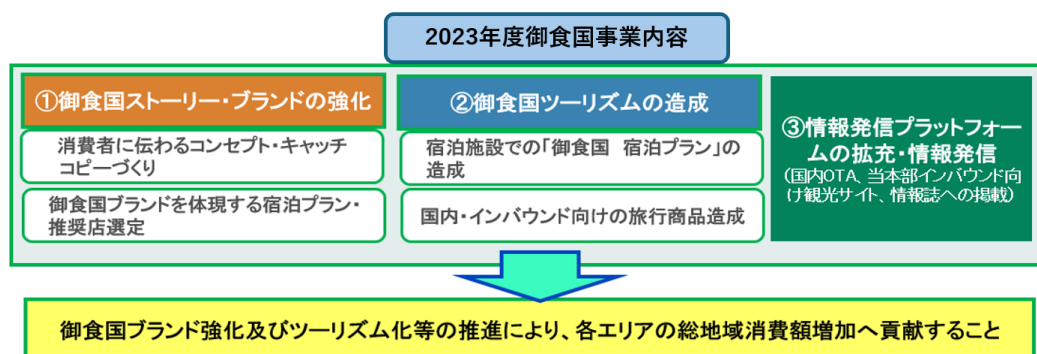
②御食国ツーリズムの造成

旅行商品造成に向けたモニターツアーの実施及びタリフ作成(京都起点に、福井、三重、淡路島をつなぐ3コース)、宿泊施設でのプラン造成及びOTA販売

③情報発信プラットフォームの拡充等

御食国専用プラットフォームの制作、一般旅行者向け情報誌への掲載

<会議等：担当者会議(5回)、実行委員会(2回)、全体報告会(1回)、現地での打ち合わせ及び専門家調査(4地域)>



■御食国ブランドコンセプト及びキャッチコピー

Royal Food of Japan 御食国 MIKETSUKUNI

歴史に愛された美味がある。

古来より恵み豊かな食材を献上してきた3つの御食国、淡路、若狭、志摩。

そこには、京都の長い歴史とともに育まれた美味がある。

■御食国ブランド推奨店の選定（9店舗）

若狭



若狭佳日（小浜市）



寿し島川（小浜市）



日本料理 崇（おおい町）

志摩



ザ・ひらまつホテルズ & リゾーツ 賢島（志摩市）



志摩観光ホテル
ザ ベイスイート（志摩市）



汀渚 ばさら邸（志摩市）

淡路



割烹はと（洲本市）



fuku（南あわじ市）



寿司割烹 源平（淡路市）

■情報発信：じゃらん net（御食国宿泊プラン 23 件造成）・JAL 機内誌（3・4月号）



じゃらん net

<https://www.jalan.net/jalan/doc/news/button/1710887201/>



JAL 機内誌

日本語：国内線・国際線(3月号) 英語・中国語：国際線(4月号)

4.3 酒蔵ツーリズム事業

日本酒は、「伝統的酒造り」のユネスコ無形文化遺産登録の提案が決まったことも相まって、訪日外国人旅行者の注目度が高まっている。当本部は、国税庁の「酒蔵ツーリズム」支援事業を活用して、継続的にツーリズム化を進めている。2023年度は、これまでに構築した海外別送システムやガイドツアー検索サイト等をベースに、大阪・関西万博に向けた旅行商品造成を行うとともに、海外別送システム普及促進・周知、酒蔵の魅力を伝える情報コンテンツの制作等の事業を展開した。

【「酒蔵ツーリズム」モデルコース・旅行商品造成】

関西エリアの酒蔵ツーリズムの商品化を促進するため、旅行会社及び通訳案内士を対象とするファムトリップを実施し、モデルコース及び旅行商品の造成を行った。

○酒蔵及び関係コンテンツに基づくファムトリップの実施

（1泊2日計3回、旅行会社計3名・通訳案内士計15名参加）

○ファム実施エリアを中心としたモデルコース造成（6エリア）

○大阪・関西万博に向けての旅行商品の造成（日帰り3コース、ガイド付きツアー）

【海外別送システムの普及促進・PR】

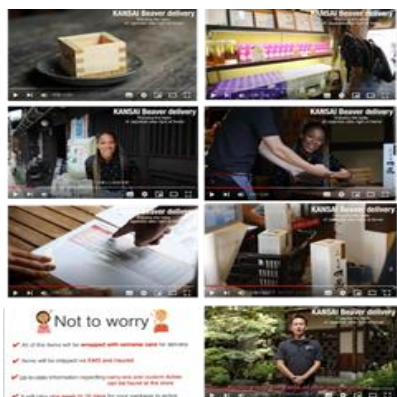
海外別送システム「Kansai Beaver Delivery」の導入・普及を目的に、海外別送システムを使った事例を紹介するなどの情報発信を実施した。

○海外別送システム導入のためのツールの作成

○システムを運営する（一社）ジャパンショッピングツーリズム協会等による関係機関への情報発信

【「酒蔵ツーリズム」の魅力発信コンテンツの制作】

関西エリアの酒蔵等の魅力を幅広く発信するため、訪日外国人旅行者向けの情報コンテンツを制作（ファムトリップで訪問した酒蔵を中心に日本語・英語のコンテンツを制作（10コンテンツ））



旅行者向け動画



旅行商品造成ワークショップ



酒蔵でのワークショップ

4.4 淀川における舟運を活用した事業への協力（近畿運輸局との連携）

淀川は古くから京都と大阪を結ぶ水上交通路として活用され、特に江戸時代には流域に多くの文化が生まれた。京都・大阪は関西においての二大観光拠点であり、これらを結び、流域と連携したツーリズムには大きなポテンシャルがある。また、大阪・関西万博までには淀川大堰閘門が整備される予定である。

当本部は、近畿運輸局が実施している「淀川における舟運を活かした賑わいづくり実証事業」に参画して、舟運と既存の観光コンテンツを組み合わせたモデルコースの構築及び検証に協力した。

5.観光のパラダイムシフトへの対応と観光インフラの強化

5.1 デジタル基盤の強化

関西観光の関心度を把握し、関西の観光戦略策定に活用するため、関西観光情報発信サイト”The KANSAI Guide”の閲覧者のアクセスデータを用いて、旅行者の嗜好、プロモーション事業の効果等を分析するツールとして、「マーケティングダッシュボード」を開発し、運用を開始した。

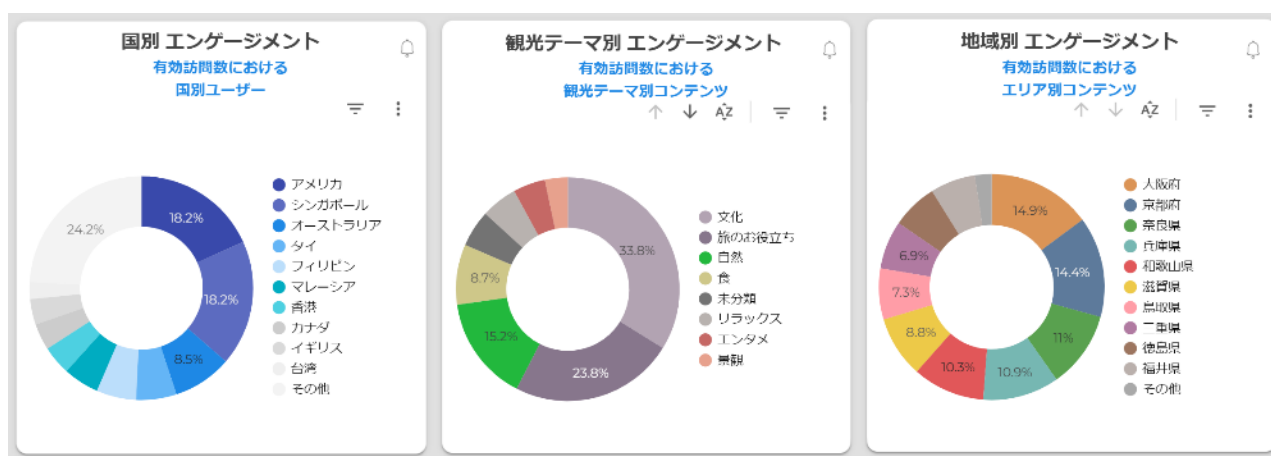
このツールは、”The KANSAI Guide”の閲覧者がアクセスする際に検索した「キーワード」、閲覧者のサイト内のコンテンツへのアクセス状況や滞在時間等が分かる「行動履歴」、「閲覧者の属性」等のデータを分析することにより、海外の方々の関西に対する関心度や嗜好などを把握するものである。

2023年度は、主に、SEO対策を強化したことにより流入が増加したグーグル検索経由でのユーザーの興味関心等を分析するとともに、その結果を当本部の構成団体と共有した。また、構成団体が自ら活用できるよう取り扱いに関するセミナーを開催した。

●2023年度 サイトコンテンツの人気度を測る指標（※日本人及び広告流入除く）

総エンゲージメント率：62.0%

平均有効滞在時間：53.59秒



マーケティングダッシュボード各種画面

5.2 訪関西意向率調査の継続実施

「訪関西意向率調査」は、2018年度から継続して実施している調査であり、”KANSAI”の認知度と訪関西意向の推移を測る基礎的な調査である。

2023年度の結果では、戦略ターゲットである欧米豪6か国（英・仏・独・米・加・豪）における未訪日の訪日検討層の「KANSAI」認知率は前年63.1%から62.9%と横ばい、来訪意向率は前年40.6%から51.7%と大幅に上昇した。特に、来訪意向率を全国各地と比べると2018年度から2023年度の伸長率は、関西が約2倍伸びており、全国でトップの上昇率となった。

今後、調査結果を活用し、関西の観光情報の内容や質を強化するとともに、世界の海外旅行検討層を”The KANSAI Guide”へ誘引し、関西の認知度、来訪意向等を高めていく。

5.3 観光人材の強化

旅ナカで直接訪日外国人旅行者に接する通訳案内士は重要な観光人材であり、大阪・関西万博を控え、その役割は更に高まっている。当本部では、通訳案内士に対するスキルアップ研修等の支援を関係団体と連携しながら継続的に実施している。

2023年度の「通訳案内士スキルアップ研修」は、「お祭り」をテーマとする動画配信、大阪・関西万博に連携する各地のコンテンツの紹介、未活動の通訳案内士の活動再開を目的とした研修会等をオンラインセミナーとして計14回実施した。これに合わせ、「お祭り」、「酒蔵」、「ジオパーク」、「万博連動コンテンツ」、「未活動通訳案内士向け」の各実地研修・ファムトリップを計13回開催した。

また、通訳案内士自らが企画するガイドツアーの造成・販売を支援しており、2021年度に構築したツアー検索サイト「Kansai Recommended Guide」に掲載し、PR及び販売支援を行っている。2023年度末では累計56のツアーの販売が行われている。



通訳案内士スキルアップ研修サイト



ガイドツアー検索サイト「Kansai Recommended Guide」

5-3-1 通訳案内士向け研修事業（関西広域連合連携）

回復するインバウンド市場において、足下では通訳案内士の不足が現実の課題となってきた。そのため、今後の活動量を増やしていくことを考えている通訳案内士及び新規登録者を対象としたセミナー・実地研修を実施した。

セミナーは、基礎的な就業方法や求められる通訳ガイド像などについて、活動中の通訳案内士等による実践的な内容として実施した。（3月5日3時間、当日参加133名、後日アーカイブ視聴234名）

実地研修は、各班40名設定で2名の現役通訳案内士によるイヤホンガイドを使用するとともに、ランドオペレーター等にも参加いただき、交流を図るなど実践的な内容としたことから、募集を超える応募があった。それぞれの参加者からは、今後の継続実施が求められている。

①京都班：3月11日、39名参加 ②奈良・大阪班：3月12日、39名参加



実地研修（京都班）



実地研修（奈良・大阪班）

5-3-2 地域のお祭り研修セミナー（文化庁事業）

地域の伝統行事や祭礼などのお祭りをテーマとして通訳案内士の知見を高めてもらうことを目的に動画撮影によるオンラインセミナーと実地研修を行う事業を継続的に実施している。2023 年度はオンラインセミナーを 10 祭（愛染まつり、亀岡祭、西宮十日戎、けまり祭、多賀大社万灯祭、熊野本宮大社例大祭、西祖谷の神代踊、米子がいな祭、新嘗祭、永平寺大燈籠流し）。上記セミナー対象から 3 祭を対象に実地研修を開催した。（8/3 万灯祭、10/25 亀岡祭、1/9 西宮十日戎）



多賀大社万灯祭



亀岡祭山鉦巡行



西宮十日戎

5-3-3 丹波篠山市通訳案内士ファミトリップ

兵庫県丹波篠山市と連携し、地域の持つ魅力を地元コーディネーターの案内のもと、旅ナカ人材である通訳案内士及び旅行会社の旅行造成担当者を対象にファミトリップを実施し、旅行商品化を図った。

- ・ファミトリップ（12月6日～7日、通訳案内士2名、旅行会社旅行造成担当者1名）
- ・ガイドツアーの造成（日帰り4コース）



河原町妻入商家群



旅行会社によるガイドツアー



通訳案内士によるガイドツアー

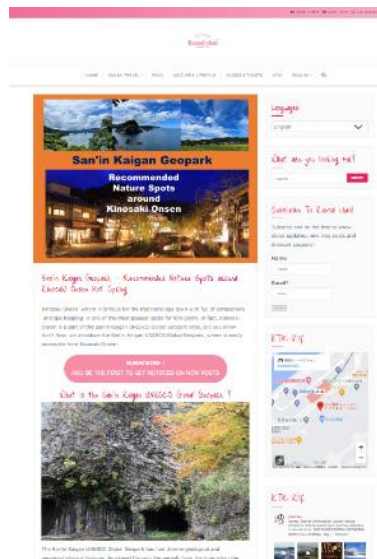
5.4 ジオパークを巡る周遊観光促進事業（関西広域連合連携）

ジオパーク周遊観光促進事業については、2023 年度は山陰海岸において、通訳案内士のファミトリップによる旅行商品造成や販促活動を実施した。

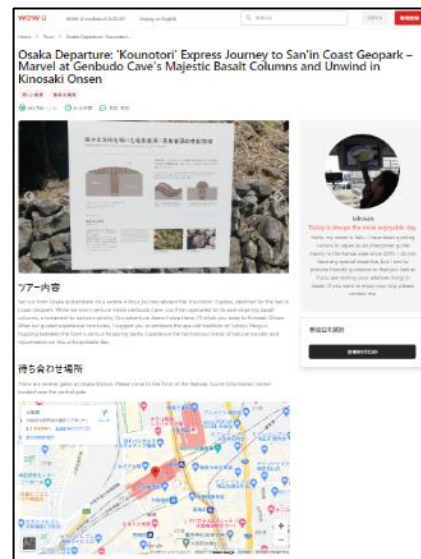
- ・ファミトリップ（2023 年 8 月 24 日～25 日、通訳案内士 2 名、旅行商品造成エージェント 1 名）
- ・販売試行に対する支援（モデルコース造成と海外エージェント・Web サイト等での情報発信）
- ・ガイドツアーの造成（2 コース）とジオパーク研修会の開催（2024 年 1 月 16 日）



モデルコース



サウンドメディア発信



ガイドツアー



香美町立ジオパークと海の文化館



淀の同門カヌーツアー（海の家メリ）



玄武洞公園

5.5 文化観光促進のための基盤づくり（関西広域連合との連携事業）

5-5-1 関西文化の情報を一元的に扱うポータルサイトの作成

文化資源の宝庫である関西では文化観光を一層促進していく必要がある。2023 年度は、関西広域連合と連携して昨年度に関西観光情報発信サイト「The KANSAI Guide」に文化関連情報の一元化を実現した。サイトにおいては、①ユーザーインターフェースの磨き上げ、②「関西文化の日」参加施設一覧の掲載、③「酒蔵」をテーマにした文化コンテンツの追加、など機能・内容の充実強化を図った。

5-5-2 文化施設をめぐるデジタル・ミュージアムパスの制作

関西を訪れる旅行者が博物館や美術館等の文化施設をより便利に巡れる仕組みとして、関西広域連合が進めるデジタルパスポートの制作に協力した。2023 年度は、ミュージアムぐるっとパス・関西実行委員会事務局と連携して、国内外の市場調査及び販売促進策等の調査などに基づき基本設計を行った。（同パスポートは、2024 年 4 月発行）

6.事業推進のための基盤整備

6.1 「関西ツーリズムグランドデザイン 2025」の推進

大阪・関西万博が開催される 2025 年を目標年次として、関西が目指す姿や基本戦略等を取りまとめた「関西ツーリズムグランドデザイン 2025」の 2 年目となる 2023 年度は、グランドデザインの成果指標として、観光地としての幸福度の傾向的上昇を図る「幸福度調査」を前年に続き実施した。また、グランドデザインに掲げる広域観光圏”KANSAI”の実現に向けて、2023 年 3 月に発足した「EXPO2025 関西観光推進協議会」において、当本部が事務局となり、ONE 関西で「万博プラス関西観光推進事業」に取り組んでいる。



6.2 大阪・関西万博に向けた関西アクションプラン（近畿運輸局、近畿地方整備局との連携）

2022 年 12 月、近畿地方整備局・近畿運輸局・関西観光本部の 3 者で策定された「大阪・関西万博に向けた関西観光アクションプラン」は、2023 年 8 月、改訂版が発表された。このアクションプランでは、観光政策と交通政策の一体的な推進をより加速させるべく「交通」の視点を追加し「4つの視点」で地域をつなげることで「住んでよし、訪れてよし」の観光地域づくりを目指している。

【アクションプランのポイント】

- ①「テーマとストーリー」「人材」「情報」「交通」の 4 つの視点で地域を「つなげる」ことで、関西の魅力を最大限発揮し、「住んでよし、訪れてよし」の観光地域づくりを目指す
- ②大阪・関西万博が開催される 2025 年に向け、観光立国推進基本計画（第 4 次）に基づき関西から観光を復活させる
- ③ 3 者が手を携え、取組効果を最大限に発揮
 - ・ 社会資本整備の実施（近畿地方整備局）
 - ・ 観光・交通政策の実施（近畿運輸局）
 - ・ 広域連携 DMO として取組を実施（関西観光本部）



6.3 「KANSAI ONE PASS」の運営

当本部が運営事務局を務める訪日外国人向け IC カード型乗車券である”KANSAI ONE PASS”は、J R 西日本が発行する ICOCA が利用可能な関西の主要鉄道会社・交通機関で利用できる。また、関西国際空港内の店舗など約 150 か所の施設や観光スポットで優待特典がついており、便利でお得なカードである。

出入国が緩和された 2022 年 10 月以降発売が急回復し、2023 年度は約 47 千枚が販売された。



6.4 Airbnb Japan との包括連携協定締結

当本部と世界最大級の旅行コミュニティプラットフォームの Airbnb（本社：米国カリフォルニア州サンフランシスコ）の日本法人、Airbnb Japan 株式会社は、2023 年 4 月 13 日、包括連携協定を締結した。これにより、2025 年の大阪・関西万博に向けてインバウンド旅行客をターゲットに、ホームシェアリングを活用した交流型観光と広域観光を推進して行くこととしている。



締結式

6.5 インバウンド情報誌「KANSAI OFFICIAL TOURIST GUIDE」及び関西広域マップの発行

「KANSAI OFFICIAL TOURIST GUIDE」は、当本部がインバウンド向けに制作している情報誌であり、会員企業・構成団体の広告とともに、「THE EXCITING KANSAI」の 8 つのルートの魅力や旅行に役立つ関西の地図、交通路線図など、訪日外国人旅行者にとって役立つ情報を掲載している（総発行数 5 万部）。この情報誌は関西国際空港をはじめ関西のインフォメーションセンター約 60 か所に配架し、JNTO 海外事務所や海外での旅行博等でも活用している。また、デジタル版については、当本部が運営する Web サイト「The KANSAI Guide」に掲載している、

インバウンドの急回復とともに、この情報誌に対する需要が急増しており、2023 年 5 月には増刷するとともに、2024 年 3 月には内容を更新した「KANSAI OFFICIAL TOURIST GUIDE 2024-2025」を発刊した。

また、各方面からの要請応えて、旅行博等に提供するなど、関西のコンパクトな情報誌として、“KANSAI”の魅力を PR し、理解を深めていただけるよう取り組んでいる。

また、2023 年 9 月、「THE EXCITING KANSAI」の 8 つのルート魅力を訴求するための関西広域マップ「ALL KANSAI MAP - THE EXCITING KANSAI」も増刷した。



▼KANSAI OFFICIAL TOURIST GUIDE https://kansai.or.jp/pdf/KANSAI_TOURIST_GUIDE_EN.pdf

6.6 会員への情報発信

当本部の活動を支えていただいている構成団体・会員の皆様に、最新の観光情報や当本部の活動をお伝えするため、様々な情報発信を行っている。

今年度のインバウンドの状況等の情報の記事提供回数は 111 回（前年度 105 回）であり、内訳は「訪日外国人旅行動向データ／KPO レポート」24 回、「海外の現地情報（元新型コロナウイルス関連情報）」49

回、「会員からの告知」17回、「関西観光本部からの研修やニュース告知」21回である。

また、2021年4月に、コーポレートサイト内に会員の商品やサービス等の案内を掲載する「会員からのお知らせ」や、現在メールで配信している情報のアーカイブやセミナー動画などのコンテンツを掲載した「会員専用ページ」を開設しており、構成団体・会員の皆様に活用いただいている（今年度掲載91件）。



会員専用ページ

関西観光本部コーポレートサイト <http://kansai.or.jp/>

6.7 関西インバウンド交流会

「関西インバウンド交流会」は、当本部の活動をご支援頂いている自治体、経済団体、会員企業・団体、地域・地域連携 DMO 等の関係者にお集まりいただき、セミナーを通じたインバウンド促進のための取組の活性化、当本部の活動内容や活動方針の説明及び参加者の交流を図る場であり、毎年、年度末に開催して来たところである。2023 年度については、参加者からの声を踏まえて、年度末開催を見送り、現在、2024 年 6 月開催に向け準備を進めているところである。

7.各種事業

7.1 伝統文化親子教室事業（地域展開型）「関西キッズ伝統文化プログラム」（文化庁連携）

文化庁から当本部が受託している、「関西キッズ伝統文化プログラム」は、各地域の子供たちを対象に、リアルイベント開催により直接伝統文化を体験する機会を創出するとともに、Web上にて体験情報発信を行い、サステナブルな文化観光資源の活用促進につながることを目的とするものであり、今年で3年目を迎える。

2023年度は、大阪、京都の大型商業施設内のイベント会場にて伝統文化の体験イベントを開催した。各会場では、琴・書道・将棋やいけばな等4種の地域色ある伝統文化による体験教室を計20コマ開催するとともに、特設ステージでのけん玉披露など伝統文化実演鑑賞を行った。各会場では、日頃体験する機会の少ない、琴などの楽器、生け花、けん玉回し等に熱中する子供たちの姿が目立った。

なお、この事業については、過去のイベントの様子や伝統文化実演などをアーカイブして配信している。



関西キッズ伝統文化プログラム会場の様子



7.2 関西文化の日（関西広域連合・関西元気文化圏推進協議会との共催）

関西文化の日は、2023年11月18・19日を中心日として、関西2府8県4政令市の域内にある美術館・博物館などの文化施設の入館料（原則として常設展）を無料とする取組みである。

2023年度の参加施設数は、昨年度の408施設から増加し、430施設となった。総入場者数は約24万人、累計入場者数は約696万人であった。実施に当たっては、ポスター約2,200枚、リーフレット約87,000部を、文化施設、鉄道主要駅、高速道路サービスエリアなどで配布・掲出した。また、プレスリリースにより、テレビ・新聞・情報誌・広報誌・マスコミ等のホームページ掲載などでの情報発信を行った。

なお、「関西文化の日」等に参加の文化施設の情報は、「The Kansai Guide」の「関西文化の日に関するパート」にて通年で公開している。



▼The Kansai Guide 関西文化の日 <https://www.the-kansai-guide.com/ja/kansaiibunka/>

7.3 関西元気文化圏賞

関西元気文化圏賞は、その年に文化・芸術活動やスポーツ等を通じて「関西から日本を明るく元気にすること」に貢献した幅広いジャンルの人物・団体を表彰する事業であり、関西元気文化圏推進協議会の事業として、2003年から実施されており、当本部はその事務局を務めている。

2023年の関西元気文化圏賞の贈呈式は、大阪市内のホテルにて2024年1月30日に実施し、同協議会の松本正義会長（関西観光本部理事長）から受賞者へ賞状およびトロフィーが授与された。

大賞には、阪神タイガースと岡田彰布監督が、特別賞には、OSK日本歌劇団及び京都に移転した文化庁が選出された。また、将来性が期待されるニューパワー賞には、阪神タイガース村上頌樹投手、レスリングパリ五輪代表内定の藤波朱理選手、ポーランドで行われた国際コンクール優勝のヴァイオリニスト前田妃奈氏、優雅で品のよい女方を得意とする文楽人形遣いの吉田一輔氏が選出された。

贈呈式に先立ち、21年前の記念すべき第1回受賞となった、人形浄瑠璃・文楽から六代 豊竹呂太夫師匠から「龍頭龍尾～活気付く文楽と日本の文化～」をテーマに記念講演をいただいた。

■各賞受賞者（敬称略）

大 賞	阪神タイガース／岡田監督
特別賞	OSK日本歌劇団 文化庁
ニューパワー賞	村上 頌樹（プロ野球選手） 藤波 朱理（レスリング選手） 前田 妃奈（ヴァイオリニスト） 吉田 一輔（文楽人形遣い）



贈呈式の様子

7.4 兵庫県立芸術文化観光専門職大学の実習生の受け入れ

兵庫県立芸術文化観光専門職大学（兵庫県豊岡市）の依頼を受けて、2023年8月24日から9月6日までの2週間、3回生3名の実習生を受け入れた。

実習前半は、関西広域へのインバウンド誘客手法や分析ツールの活用、関係業界の状況について学んでいた。後半は、奈良県観光局の協力のもと奈良市内でフィールドワークを行い、インバウンド観光客へのインタビュー、コンテンツ発信、プロモーションなどを通じ、地域が抱える課題や現状について理解を深めていただいた。

8.EXPO2025 関西観光推進協議会

2025 年 4 月に開催される大阪・関西万博は、関西観光の飛躍のための好機である。このナショナルイベントの効果を関西一円に波及させるべく、万博に訪れた旅行者を関西一円に誘う事業（万博プラス関西観光推進事業）が実施されることとなり、その推進体制として、2023 年 3 月 23 日、EXPO2025 関西観光推進協議会が設立された。同協議会は、関西の 2 府 8 県 4 政令市、民間企業・団体、関西広域連合、関西経済連合会が構成員となる関西一丸となった協議会であり、当本部は、その事務局を担うこととされた。

具体的には、「万博会場から地域へ」を旗印に、①旅行商品造成・販売、②リアルプロモーション、③デジタルプロモーション、④旅ナカでのサポート、⑤関西広域観光情報ゲートウェイの構築といった事業を一体的に進めるものである。これらの各事業については、構成団体の参加の下、ワーキンググループを設けながら進めており、ONE 関西の体制で万博に向けての準備を整えていく。

なお、設立時に行われた共同会見では、構成団体が「ONE 関西」として、万博及び関西観光への誘客など広域観光を集中的に推進することを内容とする「EXPO2025 関西観光推進宣言」が採択された。

【EXPO2025 関西観光推進宣言】

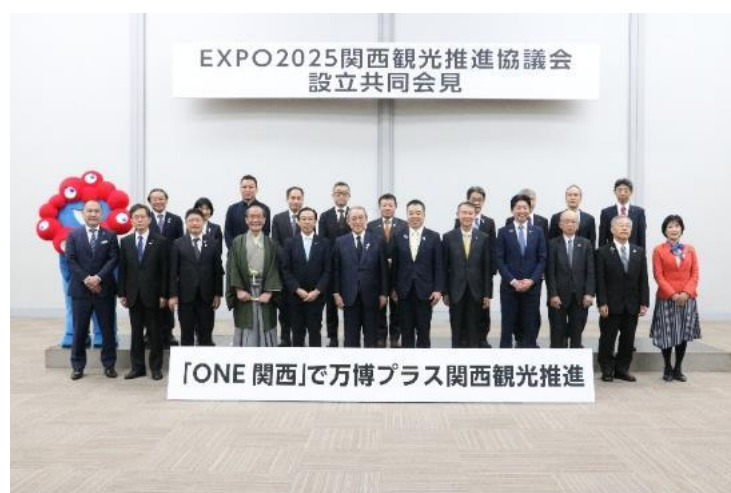
「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、大阪・関西万博が 2025 年に開催されます。

国内外から「関西」が注目を集めるこの機会を活かし、「関西各地を旅してもらう取組」を通じて、関西各地での交流の機会を増やすとともに、万博会期終了後も、いのち輝く社会を実現するため、観光を通じた国内外との交流人口を拡大させ、関西全体の成長・発展を目指すことが必要です。

EXPO2025 関西観光推進協議会は、関西の未来社会を見据えながら、万博開催までの 3 カ年において、関西の活性化に向け、万博及び関西観光への誘客など広域観光を集中的に推進することとし、参加団体の密な連携により「ONE 関西」で一丸となって取り組むことをここに宣言します。

2023 年 3 月 23 日

（参加団体名：略）



9.管理運営活動（理事会・評議員会・運営会議）

9.1 理事会

- 第1回臨時理事会(書面会議) 2023年4月21日(金)
第1号議案：臨時評議員会の開催及び目的である事項等(案)の承認の件
- 第1回理事会 2022年5月29日(月)
第1号議案：2022年度事業報告書(案)の承認の件
第2号議案：2022年度計算書類等(案)の承認の件
第3号議案：評議員会の日時及び場所並びに目的である事項等(案)の承認の件
第4号議案：役員等賠償責任保険契約継続(案)の承認の件
- 第2回臨時理事会(書面会議) 2023年7月11日(火)
第1号議案：専務理事選定(案)の件
- 第2回理事会 2024年3月13日(水)
第1号議案：2024年度事業計画書(案)の承認の件
第2号議案：2024年度収支予算書(案)の承認の件

9.2 評議員会

- 第1回臨時評議員会(書面会議) 2023年5月10日(水)
第1号議案：評議員、理事、監事退任に伴う候補者の選任(案)の件
- 第1回評議員会(書面会議) 2023年6月23日(金)
第1号議案：2022年度計算書類等(案)の承認の件
第2号議案：評議員候補者の選任(案)の承認の件
第3号議案：理事候補者の選任(案)の承認の件

9.3 運営会議

- 第1回 2023年5月18日(木) オンライン会議
- 第2回 2024年2月27日(火) オンライン会議

1 0. 会員・構成団体・オブザーバー関係（2024 年 3 月 31 日現在）

1 0.1 会員

種別	会員数	備考
特別会員	37	前年同日比較 +2、+5.7%
賛助会員	225	前年同日比較 +5、+2.3%
計	262	前年同日比較 +7、+2.7%

1 0.2 構成団体

種別	団体数	備考
自治体	14	関西広域連合（滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、徳島県、京都市、大阪市、堺市、神戸市）、福井県、三重県
経済団体	18	関西経済連合会、関西経済同友会、京都経済同友会、神戸経済同友会、京都商工会議所、大阪商工会議所、神戸商工会議所、堺商工会議所、京都府商工会議所連合会、大阪府商工会議所連合会、兵庫県商工会議所連合会、滋賀県商工会議所連合会、奈良県商工会議所連合会、和歌山県商工会議所連合会、鳥取県商工会議所連合会、徳島県商工会議所、福井県商工会議所連合会、三重県商工会議所連合会
業界団体・事業者	3	日本旅行業協会関西支部、日本観光振興協会関西支部、関西エアポート株式会社
観光推進団体	14	びわこビジターズビューロー、京都府観光連盟、大阪観光局、ひょうご観光本部、奈良県ビジターズビューロー、和歌山県観光連盟、鳥取県観光連盟、徳島県観光協会、福井県観光連盟、三重県観光連盟、京都市観光協会、京都文化交流コンベンションビューロー、堺観光コンベンション協会、神戸観光局
その他の官民連携団体	2	歴史街道推進協議会、関西・大阪 21 世紀協会
計	51	

1 0.3 オブザーバー

種別	団体数	備考
省庁	9	近畿総合通信局、外務省大阪分室、近畿財務局、近畿農政局、近畿経済産業局、近畿地方整備局、近畿運輸局、近畿地方環境事務所、文化庁
独立行政法人	2	日本貿易振興機構大阪本部、中小企業基盤整備機構近畿本部
計	11	

以 上